怪談
少女
水曜日

最近変な夢を見るんだよねー

変な？

町外れに誰も使ってないビルがあるじゃない？

あー、何故かテナントが一つも入ったことがないというあの

あそこにさー

夜中に歩いて行って何をするでもなくその建物をボーっと見上げてるの

なんと三夜連続

気味が悪いったら

……

はっ

おおっ？

うおわっ！

びくっ

…あ…
…あ～！
また例の夢か
今日のはやけに現実感があるなぁ

あ

開いてる

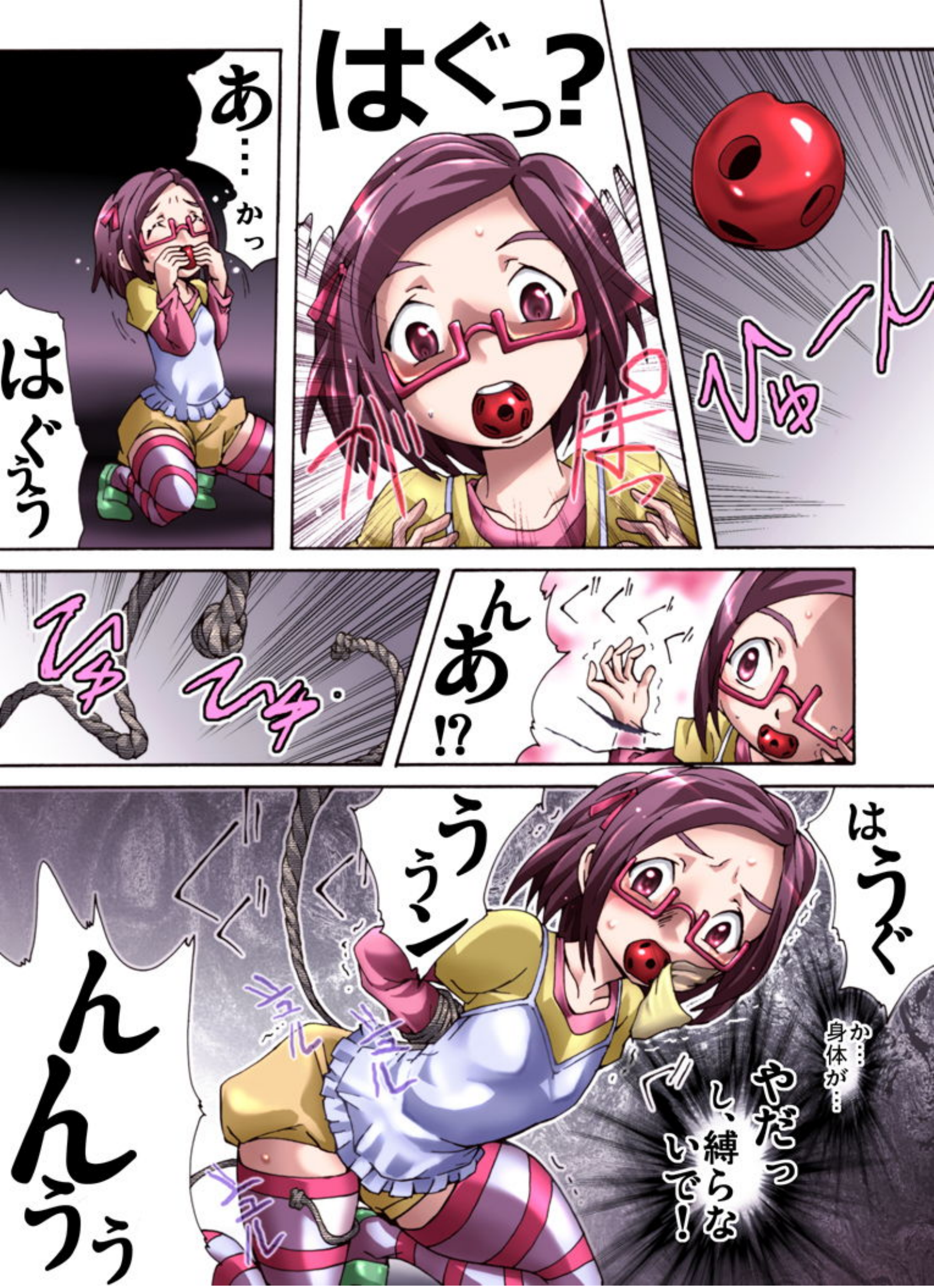
ゴゴ

こんばんわ～

…なんちて

ぐい
ぐいっ
わっ
ぐ
あいたっ
いたたた…
何なの…

オオ オオ
!
……な……っ
……え
ぇ!?
レッ
レイコ!?
……うっ
……ンン
ピクッ
ひわっ!?
ひゃ
なにっ？
なにっ？
ソワッ


あ……かっ
はぐうう
はぐっ?
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
ぷるぷる
ひゅ
ひゅ
んあ!?
ぐぐぐぐ
はうぐ
か……身体が……
やだっ
し、縛らないで!
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ
ぐぐ
うう
うう
んんうう

ん…っ
ジュル
ジュル
モゾッ
モゾッ
んっんん
ぐぐっ
んうん
ちょ…っ
ドン!
な…っ
ええ!?
ジュル
ジュル
むぐ
うぐ

んぐっ
ぎゅっ
ぎゅっ
ぎゅっ
うんっ
…っく
ぎゅっ
ぎゅっ
ふぅぐ

…ん…
んん…
…んう!?
あっ
アンコ?
んぅ
んんぅ
…って
んなっ!?
ぐくっ!?
ななな
何なの
コレは
アンコの話が気になって
ビルを見に行って…
…それから…?
ううっ
んぅ

うぅ…っ
な、縄が
絞まって…！
ぎしっ
がくっ
くうん？
ぎちぎち
やだ…
そんなとこ締め付けないで…
うくっ
ぎちぎち
ぎちぎち
ぎちぎち
ぎちぎち
ンぐぅ

ひっ
や…っ
やだやだっ
痛いってもぉーっ
やめ…そん…
んぐ
やぁンっ
んっ
ん…っ
んンう

……んっ
んう
くうう
う……っ
ううう
うっ
うっ
うっ

ふヴッ？
じゅうう
んんう
ビクッ
ぎちぎち
ううヴ
うう
ぐぐっ
ひっ
ふぅう
やだやだ
やだっ！
こんなの
やぁっ！
ギチッ
ギチッ
やめてよ
もぉーっ！
ううぅふ
ぎちぎち

くムッ
んぐぅう
んふっんむ
うふぅう
ん…
んん…っ
ポタ
ポタ
アンコ…
んっん
ぎしっぎしっ
…ん
…んふ
ずるるッ

あ…
だめ…っ
あたしも
もう…っ
うっうう
うふっ
ぎしっ
…ふ…
ふン…っ
じわぁぁ
…ううっ
ぎち
ぎちぎち
ポタ
ポタ
うんっ!!

ギ……
んヴぅ…
ふぶ…
んんヴ
ふぐふぅ
ギシ
ギシ
ギシ
ギシ
ビク
ビク
ビク
ビク
あうヴ
ンく

んんっ
んっんっ

や…だ！
何なのこの縄っ？

これ以上激しい刺激で！

はヴうっ
ヴうーっ

うふ
うう
ンン
おか…っ
おかしく
なっちゃ
う…！
夢なら早く
覚めて…っ
早く…
んっ
んっ
ふ
ふっ
ん
ムう
んんん
…んグ
ビッ
ビッ
ビッ
ビッ
きゅ…
きゅ…
きゅっ

お買い上げありがとうございました。

# ■おふたりさま■

小さな頃はただ怖いだけだった夜の外。
大きくなるにつれて、あの静けさ、人気の無さが心地良くなってきて
歩く振動に頭の冴えてくる感覚とか気持ち良いもので
深夜の散歩とか、お好きな方も多いのではないでしょうか。

FFさんもその手合い。
目的なんて無く、とぼとぼと、思索するような、無心であるような。
ただ、その日は何故か。魔が差したか、

いつも通らない道を散歩のコースに選んだそうで。

言っても散歩で歩く距離、ご近所なので迷ったところでそうそう
困ったことにもならないだろうと、少し高揚して知らない路地を
行きました。

住宅が建ち並ぶ道で、深夜に訪れると余計な嫌疑を掛けられる。
そうは思ってもUターンするのも癪。
とりあえずはこの道を抜けて、大きな筋に出はしないものかと
歩みを進めたところに、FFさんは神社を見つけたんだそうです。

建売の、似た見た目の家々が続くその通りに、ポツンと。
小さな鳥居を構えた、小さな神社。
神社というより祠が近いのかも知れません。

そこに、

いやもう聞いた時も、文章にしてる今も見返すと笑っちゃうのですが

白い着物を着た女の人が立っていたんだそうです。

しかし自分の身に置きかえて想像してみると、怖い。
さっきまで心地良かった夜の静けさが、一転して恐怖に染まります。

夜の闇に着物の白だけが浮いているような、異様な光景。
その白が蠢いたかと思うと、自分の方に近寄ってきてる気がした
FFさんは、踵を返して走りました。

明らかに自分のもの以外の足音が聞こえ、追ってきてるんだと
考えると怖くてどうにかなってしまいそうだったそうです。

そんな時でも、深夜だから騒いだら駄目だ！
っていう気持ちだけは強かったんだそうで、声も出せない。
あせってるのか冷静なのか。でも何となく分かる気もします。

街頭や自動販売機とか、明るい場所に辿りつく度に後ろを確認
しますが、見える範囲に動くものも、白いものも無く。
けれど、ソレに自宅を特定されるのでは、と考えると家にも帰れず。

FFさんは、歩くには少し遠い場所にあるファミレスまで行って
朝までそこで過ごそうと考えたそうです。
ハイ、タイトルから予想がつきますねー。

財布を持って出てきた幸運に感謝しつつFFさんが店に入ると
店員さんが入り口近くで案内をしてくれます。

「お二人さまですか？」

FFさんの後ろに視線をやりながら店員さんがそう言った刹那に
振り向くと、誰もいず、ガラス張りの扉がゆっくり閉まっていく
ところだったそうです。

よく出来過ぎててベタな話なんですが、
後日、FFさんと連れ立ってその神社に行ってみたんです。

藁人形こそ見つかりませんでしたが、

…と言うかそんなの探してもいないんですが。

花とジュースとお菓子がねー。
いっぱい、置かれてまして。

祠に供えられるんじゃなくて、下に。道に。アスファルトの上に。

だから何だってことでもないのですが。

すごく深い呼吸をしてしまった、もう15年ほど前のお話。

「暗あて顔や見えんかったのに、どして女の人や！
　って思ったんやろうなぁ俺」

つってた。

# 怪談少女～水曜日～

発行日　2012年5月25日
発行　　あとりえ八福庵